

山間地域における鳥獣被害対策の取組み（長野県木島平村）

- 山間部の過疎化した集落への野生動物の侵入防止対策として、地域と地元農林高校と社会福祉施設利用者が協働して集落周辺の誘因物となる渋柿を収穫した。
- 収穫した渋柿は社会福祉施設で加工し、関係者に配布した。

○取組の概要

- ・過疎化した山間部の集落では、人口の減少や高齢化等により、里山の手入れがされなくなっていることから、山と里の境界が曖昧になり、野生動物が農地を荒らすなど、集落への出没がみられる。
- ・「シブガキ応援隊」を組織し、対策を実施できない地域において、野生動物の出没原因となる集落周辺の渋柿を収穫して有効活用した。
- ・関係者で打ち合わせを行い、それぞれにおいて協力できる取組を確認して実施した。



○取組の様子



<収穫作業>



<収穫した渋柿>



<加工作業>



<干し柿へ加工>

○関係者の声

- ・野生動物の誘因物が除去され有効利用が図られ、被害対策や住民の安全確保につながった。(地域住民)
- ・農林高校生徒にとって野生動物の生態が学べるとともに、干し柿の加工方法を学ぶ事ができた。(生徒、先生)
- ・次年度についても是非お願いしたい。範囲を広げてほしい。(地域住民)
- ・各種報道で活動が取り上げられ、放置した渋柿等が野生動物の誘因物となることを発信することができた。(行政機関)